上矢作小学校だより

【学校の教育目標】たくましく　すこやかな　上矢作の子

大船山

第　11　号
令和 4 年 9 月 28 日
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ　http://www.ena-gif.ed.jp/kamiyahagi-e/

今年度の小中合同運動会より

校　長　　細江　幸次

今年の夏はオミクロン株 BA-5 が猛威を奮い、第7波ではこれまでにない感染者が出ましたが、運動会は当初の予定通り無事開催することができました。延期することもなく、2年ぶりに来賓の皆様も迎えての運動会を開催することができて、いよいよウィズ･コロナの新しい生活が現実味を帯びてきたように感じています。また、夏休み明けから9月の第1週は雨天が多く、十分な練習ができない日が続きました。せっかくの子どもたちのやる気も不完全燃焼といったところでしたが、それでも雨間を見つけては地道に練習を重ねたり、準備を進めたりする様子を目の当たりにするたびに、担任をはじめとする職員の認め、励まし、ほめることを大切にしたねばり強い指導を重ねてきたことはもちろん、ご家庭での励ましや健康管理に関わる毎日のご協力も大きかったことを感じずにはいられませんでした。

キッズ・ソーラン

今年の運動会スローガン「挑戦　～最高の笑顔を全員で～」のもと、2 週間余りの取組は上矢作っ子一人一人が自分なりのめあてを明確にもって取り組むことができたと感じています。それは授業時間の練習だけでなく、多くの上矢作っ子が休み時間や放課後などの自分の自由となる時間を使って、演技や競技の細かな練習に取り組んでいる姿から感じることができました。おそらくそのめあての内容は、私が表現としてよく使う「ほんの少しの背伸びとほんの少しのジャンプ」をして達成できそうなものだったからではないかと思います。自分なりに「どんなところにうまくできるコツがあるのか」「もう少しでできそうなのに、どこを直せばいいのか」ということを自分で考えること、工夫することができるめあてだったからこそ、演技や競技の細かな練習になっていったのでしょう。ひとつひとつの演技や競技が終わった後の晴れやかな表情や、勝つことができて嬉しさのあまりに発する声や、小さく突き出すガッツポーズに表れていたように感じます。また、閉会式で得点発表をするときに固唾を飲んで聴こうとする表情･姿や、優勝して喜ぶ笑顔、負けてがっかりする表情にすべてが凝縮されていたように思います。「勝ってうれしい、負けて悔しい運動会にしたい」は昨年度も私が上矢作っ子に伝えていたことですが、今年度はより鮮明な形でその姿が伝わってきました。

上矢作ジャンプ

ハリケーンリレー

運動会スローガンとなった「挑戦」は奇しくも9･10月の指導目標と重なっています。運動会という全員共通の取組を通しての挑戦から、10月は一人一人の上矢作っ子がどんな取組に焦点を当てて、挑戦するかという、まさしく「行事で得た自信を日常生活に生かす」個々の取組となっていきます。実り多き10月となるよう、子どもに寄り添う3形態「率先垂範(教師自らやってみせる)、師弟同行(教師と児童が一緒になって取り組む)、卒啄同機(様子をよく見てタイムリーな指導援助をする)」を大切にしていきます。